

佐藤 洋一郎 教授

同盟と疑似同盟

—インド太平洋における戦略的連携



第2次世界大戦後の東アジアの安全保障システムは、日米、米韓、米豪の3つの二国間同盟および米比・米タイの比較的小規模な同盟を核に構成されてきました。しばしば車軸（ハブ）とスポークに例えられる東アジアのこの安全保障システムは、西ヨーロッパにおける北大西洋条約機構の下での多国間安全保障システムとは大きく異なります。冷戦終結後30年経つ今日、東アジアとヨーロッパの異なる安全保障システムは、類似の問題に直面し、部分的に共通する変革を経験しながら、かつそれぞれの異なる特徴を維持しています。

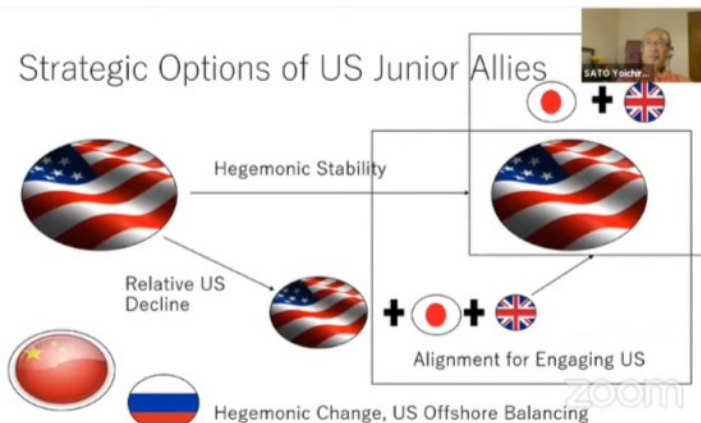
両システムにおける最も興味深い共通の特徴は、戦略的提携関係の数の増加です。同盟には満たないものの、こうした戦略的提携関係は両地域における安全保障システムの中で重要な役割を担っています。しかし、その役割が一体どのようなものであるかについて、研究者の議論は一致していないのが現状です。戦略的提携関係は、既存の米国との二国間同盟を「補完」するものなのか？それとも戦略的提携関係は、中国の脅威が増大する局面において、米国の同盟国の安全保障に対するコミットメントが低下するリスクを減殺する試みなのか？そもそも戦略的提携関係はなぜ増えているのか？そしてその増加の理由は欧州とアジアに共通のものなのか？これらの疑問は、国際関係理論におけるリアリズムとリベラリズムの終わりなき論争を直接に揺さぶるものとなっています。



現在の私の研究では、日本がインド太平洋地域および欧州諸国との間で結んだ戦略的提携協定を題材に、既存の文献研究や政策決定者へのインタビューを通じて、その力学を明らかにすることを試んでいます。研究の成果は複数の学術編纂書籍、学術研究雑誌への論文、政策レポートなどでの発表を予定しています。

Ritsumeikan Center for Asia Pacific Studies (RCAPS) Seminar
**INTERPRETING JAPAN'S SECURITY ALIGNMENTS:
IMPLICATIONS ON THEORETICAL DEBATES
IN INTERNATIONAL RELATIONS**
Thursday, December 10, 2020
20:00-21:30 Japan Time
Yoichiro Sato
佐藤 洋一郎
Professor, College of Asia Pacific Studies
アジア太平洋学部 教授

Strategic Options of US Junior Allies



学部	アドレス
アジア太平洋学部	satoy@apu.ac.jp
研究分野	
政治学、国際関係論	